

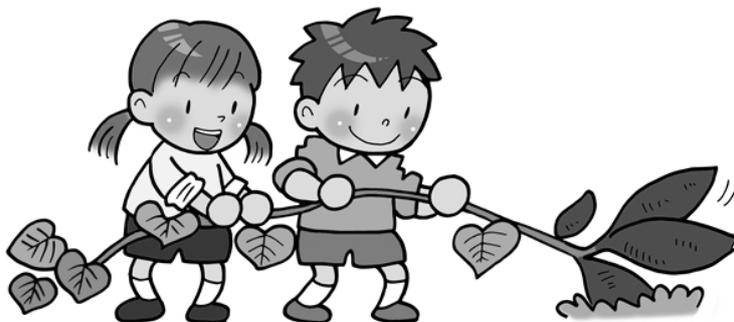
5. 市民ワークショップ、策定委員会からの主な意見

1. 家庭における食育の推進

区分		意見
食習慣の定着について	生活習慣の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日1回、家族そろって食事をしている家族は少ない。遠距離通勤者もあり、食事時間に家族がそろわない。今は簡単に食材が手に入り、便利になっているが、特に核家族の場合仕事などで忙しく時間がないので、ついスーパーやコンビニの惣菜となってしまうこともある。 ・ 昔はもっと時間をかけて作っていた。
	子どもたちへの希望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食材の本来の味がわかり、食のありがたさを感じられる心豊かな子どもに育ててほしい。 ・ 食に季節を感じることができ、旬がわかる子どもに育ててほしい。 ・ 子どもたちが朝ごはんをしっかり食べる習慣を身につけてほしい。 ・ 篠山の食を自慢できる子どもが増えてほしい。 ・ パソコンや携帯電話の利用などで早寝早起きができず、食べる時間がなかったり、食べる気にならない子どもがいるので、正しい生活リズムを身につけてほしい。 ・ 食事の時のマナーを向上する。
	家庭でできること	<ul style="list-style-type: none"> ・ おふくろの味にふれる機会が少ないので、家庭で継承されてきた「おふくろの味」を守り、伝える。また、オリジナルの料理を作る。 ・ 3食きちんと食べる習慣をつける。 ・ いただきます、ごちそうさまなどの食事のあいさつや、感謝の気持ち、家族で協力して手伝えることなど、実践が大切なので、まず大人から実行する。 ・ 1日1回家族で食事ができるようにし、コミュニケーションをとる。 ・ できる範囲で地元の食材を利用し、手料理で、バランスよく食事を作る親の姿勢をみせる。 ・ 買った方が安く、手軽で早いですが、手づくりの魅力を伝える。 ・ 旬のものや地域の特産物を利用して、簡単にできる料理を普及する。 ・ 食文化の基本は家庭でふだん何を食べるかにあるので、可能な限り「家庭の味」を取り戻す。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食生活が健康面に及ぼす影響について、伝えていかなければならない。 ・ 土にふれ、自然にふれる活動から、食育は始まる。

2. 保育所、幼稚園、学校における食育の推進

区分		意見
食育の指導	指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の中に食育がきちんと位置づけられ、栄養教諭も配置されたことで、今後食育が充実される。 ・食育実践校の取り組みを保護者や地域に広げていく。
	指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの時から食育を推進する。 ・行政主導の食育カリキュラムをもっと活性化する。 ・自然環境の変化で毎年農耕地が砂漠化している現状を教育の中で伝える。 ・子どもたちにもわかる食育カリキュラムを作成する。 ・学校単位での講演会や勉強会を実施する。 ・楽しみながら実習する中で、食べ物に対する意識を向上させる。
	体験	<ul style="list-style-type: none"> ・食材を生産する農業の役割や重要性を理解し、体験を通して食生活とのかかわりが学習できる教育を推進する。 ・種から収穫までの農業体験を行うなど、土の学習をする。
	交流	<ul style="list-style-type: none"> ・校区ごとで行事にあわせ、保護者と交流しながら食に関する意見交換が出来るようにする。 ・学校外の教育や指導も取り入れて、食育を進める。 ・学校と団体に連携を取りながら進めていく。 ・PTAなども巻き込んで、都市と農村の交流学習会を開催する。
給食	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の食材を自給自足にする。 ・米粉パンの導入により、週3日米飯、2日米粉パンで米を主とした給食となっているが、さらに充実させる。 ・学校給食に地産地消を取り入れる。 ・給食の安全性に重点を置く。 	



3. 地域における食育の推進

区分		意見
地域活動	ふれあい・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の食育の活動で若い世代や男性が増えるよう、活動への参加を呼びかけていく。 ・伝統料理、料理実習等を通じて篠山産業高校東雲校との交流があるが、このような交流の拡充を図る。 ・3世代交流の食文化教室などを開催する。 ・食文化、伝統料理、食事のバランス、調理実習を上手く組み合わせて取り組む。 ・特産物のPRを行う。
	継承	<ul style="list-style-type: none"> ・篠山の特産物について説明できるように学んでほしい。 ・行事食や伝統料理に子どもの頃から慣れ親しみ、いつまでも受け継がれるまちにしたい。 ・伝統食を知っているが、作ることができない。 ・伝えたい料理が今の人達に合う味かどうか。 ・旬の味を知らないなので、旬の味の料理を作ることができない。 ・伝統食を教える人がいなくなった。 ・若い人が行事に参加しやすい体制や、受け継ぐ機会がない。 ・季節ごとに行われてきた様々な行事とともに供された料理が作られなくなり、伝統の味が失われつつある。 ・地区の高齢者から郷土料理や食に関しての風習を教えてもらう機会を設ける。 ・地域の高齢化、少子化が進み、継承が難しくなっているが、意識して取り組みを深め、伝えていくことが大切である。 ・伝統料理や行事食を機会あるごとに伝え、実習していく。
	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・食育の取り組み情報が、他の組織や団体にも波及していくようにする。 ・各種団体が互いに協力し、講話や調理実習を行う。
食文化		<ul style="list-style-type: none"> ・真の食文化を深く追求すべきである。 ・価値観の多様化により、生活様式がバラバラで食文化を見直すことが大変困難である。 ・衣食住が欧米化する中、食文化を取り戻すためには、長い年月をかけた、息の長い継続した取り組みが必要である。 ・日本は米を主食としての食文化が継承されてきており、旬と合致したものが地域の食文化である。 ・伝統料理を継承し、新しい食文化を創造する。
飲食店・小売店		<ul style="list-style-type: none"> ・コンビニエンスストアを上手に利用する工夫をする。 ・お店で地元産物コーナーを積極的に設置する。 ・飲食店で、地産地消メニューを推進する。 ・食事バランスガイドの篠山市版を作成し、スーパーなどに貼り周知し、バランスのとれた食事を普及する。 ・伝統食の食材セットを販売する。 ・店頭で食育フェアを開催する。 ・市内のすべての店に「食育推進」ステッカーなどを貼り、市民に啓発する。 ・飲食店・小売店を通して、顔の見える安全安心なものの食育を考える。

4. 篠山の豊かな農産物の活用の推進

区分		意見
農業	農業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業の後継者がいない。 ・ 農業で生活できるシステムではない。 ・ 篠山市の野菜が市外へ出ている。消費者がたくさん篠山へ買いに来る。 ・ 農家であっても生産活動にかかわる機会が減少し、農業に対する理解が薄れている。 ・ 輸入品についてはWTO関係があり、私たちには動かしがたい現状がある。 ・ 農業地域を持つ市町村は、食を生み出すという重大な責任がある。 ・ 活性化のため、若い人でも農業で生計が成り立つようにしていかなければならない。 ・ 食べ物が懐かしくて帰ってきたくなるまちにする。 ・ 小地域で連携して、バランスの良い食材についてPRする。 ・ 地域ぐるみで交流会を活性化する。 ・ 市全体の窓口を一本化し、取り組む団体、集落などが活動内容を登録する。 ・ 地域で情報交換を行ったり、諸会合でPR、食を通じた心の交流を行う。
	特産物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国に誇れる特産物を大切にしてほしい。 ・ 篠山市の特産物を知り、料理ができる人になってほしい。
	体験活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田や畑を持っていない人も、篠山市では四季の食文化体験がたくさんできる。 ・ 身近にある田、畑を知らない。 ・ 修学旅行などで農家に宿泊するなど、農業や自然体験の事業に積極的に参加していく。 ・ 都市部と農業との交流を持たせる。 ・ 地元の子もたちに、宿泊体験を通じて作物を作り、食べる喜びを感じさせる場を設ける。
	地産地消	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の食材が食べられてない。 ・ 食べ方（料理）を知らない若い人が多い。 ・ 篠山で栽培した野菜等を地元の人がどれだけ食べているのかわからない。 ・ 地元の消費者に情報や食材の提供ができるしくみづくりをする。 ・ 地産地消弁当を作り、販売する。 ・ 地産地消、国産消費が言葉の一人歩きにならないように取り組む。
安全安心	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「安全」の受け取り方は生産者でも様々である。 ・ 市場に出回っている食品の60%が輸入品であり、今こそ消費者の食の安全を考える時期である。 ・ 篠山の農産物で安全安心な食生活を送りたい。 ・ 食品の安全性を個人的にチェックするのは難しいので、行政機関などの対応に期待する部分である。 ・ 市民がもっと安全安心な食材を選択できるよう、市独自の基準や食材がほしい。 ・ できるだけ多くの人にウォッチャー登録をしていただき、食品の安全性に関心を持ってもらう。 ・ 食の安全性に関して、今以上に情報開示していく。 ・ 勉強会などを多く取り入れていく。 ・ 情報誌の配布や、新聞、テレビによるわかりやすい情報提供を行う。 ・ 個別の調査や研究の取りまとめを行い、様々な分野からの情報を多くの人へ発信する。 	

5. 食育を進めるための環境づくりの推進

区分		意見
環境づくり	理念・理想	<ul style="list-style-type: none"> ・食育は、人間形成であり、命である。 ・みんなが正しい食習慣を知っている、健康のまちになってほしい。 ・全国の先進地になるような「食育のまちささやま」を目指したい。 ・市民が篠山市を好きになる。
	意識	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの「食育」に対する意識や関心が低い。 ・食べ物の重要性について認識が薄い。 ・食育という言葉を目にする機会が少なく、本来の主旨が伝わっていない。 ・正しい知識を教える必要がある。 ・食育についてのPRが不足している。
	広報・運動	<ul style="list-style-type: none"> ・全市民が「食育」について知ることができる情報発信方法を検討する。 ・篠山市独自の推進運動を展開する。 ・「朝ごはんを食べよう市民運動」などを展開する。 ・地球環境と食べ物、食生活と栄養など、具体的な教育に取り組む。 ・食育に関心を持ってもらえるPRや、篠山市ならではの朝ごはんメニュー、お弁当メニューをつくる。 ・1日3食ご飯を食べる運動を進める。 ・食育のイメージキャラクターを募集する。 ・食育標語の募集を行う。 ・食生活を主体にしたスローガン募集などを学校に呼びかけ、市民にもアピールする。 ・「食育のまち ささやま」宣言を出す。 ・食育に関するイベントやシンポジウムを開催する。
	人材	<ul style="list-style-type: none"> ・食育ボランティア登録制度や、各組織、団体が連携して食育を進めて行けるような体制づくりが必要である。 ・若い世代に正しい情報を具体的に伝えられるよう、周知方法を考える必要がある。 ・食のアドバイザーを普及する。
	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の団体だけではなく、家庭、学校、地域が連携して取り組む。 ・食育が様々な組織を横断する活動に発展させる。 ・行政と団体で連携を取りながら進めていく。 ・団体同士で連携を取りながら事業を行っていく。 ・一部の部署だけではなく、篠山全体で安全な農業、安全な食、そして平和を真剣に考え、取り組む。